

お寺で夕暮れ合唱コンサート

とき 2018年7月21日(土)

18:30 開演

場所 洲本市五色町鮎原 延長寺

&

アルファビア合唱コンサート

とき 2018年7月22日(日)

13:30 開演

場所 洲本バスセンター前
アルファビア



演 奏 曲 目

〈子どもと大人が共に歌う合唱〉

信長貴富作曲 河井醉茗作詩 「ゆずり葉に寄せるバラード」

「ゆずり葉」に寄せて、親から子へ受け渡される命や社会のバトンタッチを歌います。「父さん母さんは何ひとつ持っていかない、すべてを子どもたちの手にゆずるのです」というこの詩は、80年前に書かれたものです。変わらないその思いを今生きる私たちが子どもたちと一緒に歌います。

〈和合亮一とともに歌う〉

詩・和合 亮一

新実徳英作曲 「つぶてソング」より・「あなたはどこに」「フルサト」
「放射能」「燃え上ろう」「許せるか、あなたは」

2011年、東日本大震災直後に和合亮一さんが Twitter で発信した詩に、作曲家・新実徳英さんが曲をつけ、12曲の歌が作られました。その中の何曲かを演奏します。震災直後の不安、怒り、悲しみ、そして祈りが短い歌と言葉の中に凝縮しています。

信長貴富作曲 「楽譜を開けば野原に風が吹く」

2017年に福島県合唱連盟設立70周年記念作品として初演されました。和合さんが幼い頃より親しみ遊んでいた野原のイメージが根底にあり、野原に吹き渡る風を表すようにエネルギーあふれる壮大な1曲です。

千原英喜作曲 「キャッチボール」・「もうひとつのキャッチボール」

「キャッチボール」は2017年に兵庫県で開催された Pray from Kobe(震災復興支援の合唱コンサート)にて初演されました。「もうひとつのキャッチボール」は2018年3月11日、宮城県の合唱団 Epice の初演です。「あの日」遠くにいつってしまった人ともう一度向かい合おうという思いが、キャッチボールという言葉に託されます。神戸で生まれた歌と東北で生まれた歌が、今日淡路島で再び出会います。

新実徳英作曲 「ふくしまをてのなかに」 ～福島市政施行 100 周年讃歌
福島市政 100 周年の記念讃歌として 2007 年に書き下ろされました。ワルツのリズムにのせて故郷への愛があふれるようなメロディが活き活きと歌われます。福島市という特定の街のためにつくられた歌ではありますが、誰もがもっている、それぞれの故郷に思いを馳せて歌える 1 曲です。

出演者

ゲスト：和合 亮一（詩人）

指揮者：西岡 茂樹

ピアノ：毛利 美奈子

コーラスキャンプ in 淡路島に参加の全国の皆様

淡路合唱連盟有志の皆様

洲本高校音楽部の皆様

五色の子供たち

1 年生：小道にこ 清水くるみ

2 年生：新家心春 花岡佐知 湯浅葵 金田晴順

3 年生：大濱響 堂角田桃子 富山美咲 坂本蒼衣

4 年生：生子茉菜 湯浅暁音

5 年生：小川寧々 大橋心誇 大橋美優 大濱奏 金田菜緒 小道響来

角村玲奈 花岡百合 堂角田梨子 弥森優衣

中 3 生：坂本七海 長井日南 堀川杏

みなさんで一緒に歌いましょう

ふるさと

兎追いし かの山
小鮒釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき 故郷

うさぎ おいし かのやま
こぶな つりし かのかわ
ゆめは いまも めぐりて
わすれがたき ふるさと

如何に在ます 父母
恙なしや 友がき
雨に風につけても
思い出ずる 故郷

いかにいます ちちはは
つつがなしや とものがき
あめにかぜに つけても
おもいはずる ふるさと

志を はたして
いつの日にか 帰らん
山は青き 故郷
水は清き 故郷

こころざしを はたして
いつのひにか かえらん
やまはあおき ふるさと
みずはきよき ふるさと

主催：コーラスキャンプ in 淡路島

共催：延長寺

後援：洲本市・洲本市教育委員会・兵庫県合唱連盟

協力：淡路合唱連盟・赤井企画

ゲストプロフィール

和合 亮一

1968年福島市生まれ。
詩人。

国語教師。福島大学卒。
第4回中原中也賞、第
47回晩翠賞、みんゆう
県民大賞、NHK東北放
送文化賞、福島県文学
賞などを受賞。

2011年、東日本大震災直
後の福島からTwitterで

連作詩『詩の礫』を発表し続け、同年5月、世界三大コンサートホールであるオランダのコンセルヘボウに招致、朗読にて福島のことを発信するなど、国内外から注目を集める。

詩集やエッセイ集、絵本など多数刊行、特に震災後の著作は二十冊を超え、これらはフランス、ドイツ、ブラジルなど世界各国で翻訳、出版された。

新聞各紙にてエッセイ、時評などを連載。

国語や音楽の教科書・準教科書に、作品が掲載。

最新刊は、新書「詩の寺子屋」(岩波書店)、詩集「昨日ヨリモ優シクナリタイ」(徳間書店)など。

2017年7月、小説家・村上春樹氏のフランス語版名訳で知られるコリーヌ・アトラン氏により、詩集「詩の礫」がフランスにて翻訳・出版され、第一回ニユンク・レビュー・ポエトリー賞を受賞。フランスでの詩集賞の受賞は日本文壇史上初となり、国内外で大きな話題を集めた。

NHK復興サポーター。「ふたば未来学園」教育復興応援団。福島県教育復興大使。



講師プロフィール

西岡 茂樹

1955年兵庫県生まれ。合唱指揮を田中信昭、須賀敬一の両氏に師事。幼い頃より様々な音楽に熱中するが、高校時代からは合唱と指揮を始め、大阪大学混声合唱団では学生指揮を3年間務める。その後、1979年には大阪の老舗合唱団である豊中混声合唱団に入団、副指揮者を経て1989年より第8代の常任指揮者となる。

また、2001年には豊中混声の支援を受け、次世代の合唱人の育成のために豊中少年少女合唱団を創設、その必然的結果として生まれた両団のコラボレーションによる「芸術作品としての“大人と子どもが共に歌う合唱”」は、新しい潮流として大きな注目を集めている。

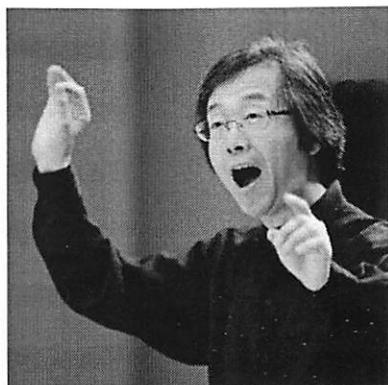
指揮活動は多岐に亘るが、その最大の関心は、『世界に誇ることができる日本固有の合唱芸術の創造』にあり、現代日本の創作家の意欲的な作品を、委嘱初演を含めて、とりあげ続けている。

和合亮一氏との出会いは、震災前の2008年にさかのぼる。和合氏の詩に新実徳英氏が作曲された《「宇宙になる」～3つの愛のかたち～》を豊中混声合唱団で初演、以来、2011年の震災を超えて、長く協働が続いている。

和合氏の詩に作曲された作品の演奏については、これまでに「つぶてソング」・「決意」・「風を返して土を返して」・「青空に」・「福島を手の中に」(以上、新実徳英)、《「あなたをあきらめない」～和合亮一の「詩の磔」による合唱カンタータ》・「貝殻のうた」・「今、この世界に」(以上、伊藤康英)、「キャッチボール」(千原英喜)、「加速し続けるエレジー」・「田園」・「夜明けから日暮れまで」(以上、信長貴富)などがある。

現在、豊中少年少女合唱団、豊中混声合唱団の指揮を主軸に、女声合唱団あい(山口県)、女声合唱団Stella(三田市)、関西大学グリークラブ等の指揮者として活動する他、高校合唱部・大学合唱団・一般団体への客演指揮、各種合唱コンクールの審査員、合唱講習会の講師などを務める機会も多い。

関西合唱連盟理事、大阪府合唱連盟副理事長、日本合唱指揮者協会関西支部委員、21世紀の合唱を考える会「音楽樹」監事、宝塚国際室内合唱コンクール委員会理事、奈良学園大学教授。



ホームページ <http://www.nara-su.ac.jp/~nishioka/music.htm>

E-mail shigeki.nishioka@nifty.ne.jp